

令和4年度八尾市社会福祉審議会

議事概要

日 時：令和5年3月17日（金）14：00～

場 所：八尾商工会議所 3階 大ホール

出席者：委員 12名（4名欠席）

事務局 15名

開会あいさつ・委員紹介

案件 報告事項1 地域福祉専門分科会の開催経過について

【資料1】を用いて説明

■委員の意見・質問等

職務代理

重層的支援体制整備事業の実施計画がメインの議題となっており、2年間の準備を経て計画が策定されたのか。

事務局

準備期間として2年間とし、つなげる支援室を新たに設置し、令和3、4年度と取組みをしてきた中でさらに相談体制だけでなく地域づくりやそこに参加していただけるように市民の方をつないでいく支援をやっていくとの方向性を示させていただいており、地域福祉計画に定めている3本柱を同時進行で進めていくという形となるものです。

職務代理

新たな制度やサービスをつくるのではなく、既存の仕組みを相互に繋ぎながら困っている方の生活実態を踏まえて適切な支援をしていくということを2年間の準備を経て今回実施していくという計画が策定される。

特にこだわっている点はあるのか。

事務局

重層的支援体制整備事業実施計画の中でポイントは、青年期から中年期に対する積極的な支援がなかなか行き届いていないのではないかと、といった課題に対して対応ができるような体制をとりに行くなどまずはどこも手を出しにくかった制度の狭間にいる方を積極的に支援していくことが一つ。

また、本人の寄り添い支援ということで、伴走支援ができるような体制の構築。そして、地域とつながり社会的孤立をしないようにするための地域づくりを行っていくといったこと

を行っていく計画となっている。

職務代理

年齢でいうと高校生出たあたりから高齢期に入る前あたりが一番支援の網の目にかかりにくい。ただ、実際に困っている方はいる。そういった方をしっかり把握し、寄り添って支援につないでいくための仕組みづくりをするということ。

事務局

資料 1-3 6 ページに図を載せているが、いろいろな取組みをしてきた中で、市が感じた課題というのが、高齢分野とかこども分野は制度的に充実している、比較的いろんな支援策があるが、18 歳以上 64 歳以下までの間が孤立していたり、社会参加が十分出来ていない方々に対するアプローチであったり、居場所がない実態というのが見えてきた。この部分に対してしっかりとアプローチしていく体制をつくり、今までであればどこかがやればいいが、なかなか障がい手帳を持っているわけでもない病院にもつながっていないでも何らかの支援が必要な人にアプローチできなかったところを今回市や社協、地域の社会福祉法人や地域団体の協力をいただきながら支援していくことに乗り出していく。

職務代理

こどもとか高齢者は一応年齢で特定しており、支援が十分であるかは課題があるだろうが、対象把握の上では分かりやすい。18 歳超えてから 64 歳までの人はなかなか網の目にかかりにくい。こどもの中でもヤングケアラーの問題などもありますから児童福祉の領域から漏れるケースのあるのでしょうけど、そういう方をしっかり把握し支援をしていく仕組みづくりと支援の方法・あり方を考えるそのための計画だということ。

委員

とてもわかりやすく、また、私たちがぱっと見て知ってほしい・勉強してほしいポイントがわかるようになっている。

先日も高齢の方の相談をしていましたが、その方は商品を次々に購入されている次々商法に引っかかっていた。ご家族が寝たきりであったため、いち早くつなげる支援室に相談したところ、ケアマネージャーに連絡調整し、関係機関と連携して支援を行った経過があった。

数年前であれば、担当課ではないからこういった事例はできないと断られ、その方は路頭に迷っていたと思うのですが、典型的な縦割り行政から誰ひとり取り残さない支援をされているなど感謝しています。また、困っている立場の人とともに一緒に解決できるよう、警察や保健所、社協、高齢クラブなどと共に見守っていきたい。

職務代理

つなげる支援室があることで、第三者が関わるができるようになったのですね。

事務局

そうです。今回は高齢者であったので、高齢者あんしんセンターなども動いてくれた。また、消費部門や警察などとの連携であるとか、今回のケースではありませんでしたが、アプローチした時にその問題だけでなくいろんな問題がみえてくる。そういった時にはいろんな関係機関を含めての会議や支援策を講じていくといった体制ができることで結果的に支援がつながっていく。

職務代理

消費者被害にあいやすい状況が、社会的孤立となっている背景がある。消費者被害が切り口で生活課題が見つかるだろうし、つぎからつぎへと詐欺にあうのも悪のネットワークが強いのだろう。

委員

何年か前に何かを購入した時にブラックリストに載ってしまっていると思う。

職務代理

悪のネットワークがあるので善意のネットワークを是非作って防いでいってほしい。

委員

先日成年後見の会議の中でいろんな課題がある方がいて、市はつなげる支援室を設置して、相談機関が困った時につなげる支援室に相談し、どこかにつながったと安堵する。相談機関はこれで繋がったからもう終わりという意識になってしまうので、ネットワークですつと関わっていくそういった考え・意識も大事であるといった議論があった。

相談に関わった者が継続してみられるような意識を含めて考えていく必要がある。

職務代理

「つないで終わる」ではなく、「つないでから始まる」みたいなキャッチコピーを作成してみたら、八尾でいうつなげる支援室みたいな部署ができると繋いで終わり、以降関わらなくなることがある。なので、つないでからが始まりだという意識が重要。伴走型支援は困っている方に寄り添って支援を続けていくが、支援者もつないでからタグを組んで連携しながら一緒に支援していく姿勢が必要。

報告事項 2 高齢者福祉専門分科会の開催経過

事務局より

【資料 2】を用いて説明

職務代理

介護保険は来年度4月から第9期の計画の策定が始まる。

事務局

この4月から第9期策定に向け、今年度実施したアンケートの内容を踏まえて進めていく形になります。

職務代理

介護保険は3年ごとに計画を策定します。資料にある26ページの保険料を決めるのも大きな意味がある。八尾市は全国でいえば、高めの設定であり、今後も高くなるのか

事務局

基金のいれながらやっているところもあり、基金が減ってきているところも踏まえると若干高くなる可能性はあるかと思えます。

委員

資料2-2第7期計画におけるグループホーム整備事業の平成30年に決定したものの辞退があり、第8期計画の特別養護老人ホームを公募したけども応募がなかった。やはり、光熱費や建築費もあがり、介護士もすごく不足している状況の中、今後も募集しても応募がないのではないかと思うがどうでしょうか。

事務局

これはコロナウイルス感染症の影響が多にあるのは間違いない。一方で委員がおっしゃっていたように建築費の高騰の影響化もある。さきほどの保険料も2025年で段階の世代が全て75歳を迎え、介護保険料も一番ピークで厳しい年と考えている。一定の施設は今後必要となってくる。そこは市として最大限の努力をし、介護保険については持続可能な制度になるように利用者負担の部分が大きくなっている。我々も国へ国費を増強も含めて制度の改善も求めている。現状で改善したと報告はできませんが状況を見守りながら必要数を次年度でアンケートを元に議論していく。

職務代理

次の計画は2025年問題に対応するための計画でもある。2025年問題は昭和22、23、24年生まれの団塊の世代が全て75歳以上（後期高齢者）となり、介護の人数も多くなりことに対応しなくてはならない。在宅系のサービスに加え居住を含めたサービスをどうするかが課題となってくる。

委員

資料2-3 10ページ (3) 多様な生活支援サービスの充実の中で、福祉有償運送事業と

というのが今年度末で（社協実施が）廃止となる。移動が必要な人はいる中で提供者が組織できない状況になっていると思うので、その課題などどのように考えているのか。移動困難な方がおり、つなげるツールが一つ無くなっていることは、大きな問題として見える。

委員

社協としても残念であるが、社協が行っている福祉有償運送事業は民間が行っているものとは少し違っており、事業登録はしているがボランティアで無償の運転手の登録をしていただき、ドライバーがサービスを提供してもらうという形で、社協は車両等運行にかかる経費を負担している。高齢者の事故が多く発生しており、ボランティアの年齢制限を設けており、これは民間のタクシー会社のドライバー年齢が75歳という上限があるため、そこに合わせている。

現状、新たに運転ボランティアをやりたいという希望の方がほとんどなくなっている。今している方も75歳を超えてくるため継続が困難であるという判断になった。

職務代理

ボランティアドライバーの確保が難しいということですね。利用者はどの程度いたのですか。

委員

利用者については、コロナでかなり減っており月20人程度となっている。この20人も毎月というものではなく、必要な時に活用している。常時活用しているのは10人程度。

職務代理

八尾は比較的街中で便利な地域ではある。それでも移動が困難な方は多くいるため、その仕組みをどうするかは問題となってくる。

高齢分野だけの課題ではない。地域生活をいかに支えるかという移動保証や買い物支援の問題を含めて、介護保険の枠で考える部分と地域福祉も含めて八尾でどういった仕組みを作っていくかを考える必要があります。

報告事項3 障害者福祉専門分科会の開催経過について

【資料3】を用いて説明

職務代理

障害者福祉専門分科会では、コミュニケーション条例をどうするのかなどを議論しています。

委員

コミュニケーション条例検討部会のことに関しては、資料のとおりであります。

簡単にいうと、現時点では条例化という必要はない。昨年度国がこの関係の法律を施行し、大阪府も類似条例を持っている。差別解消法や大阪府の類似条例も広義でカバーしているため、八尾市として新たに作成する必要があるのかどうかも考えたが、現時点ではそれはないであろう。むしろ既存のものをきっちりとやっていくことが大事である。ただ、今後も社会状況が変われば議論しなおす必要がある。

職務代理

国の枠があり、府の枠がある、条例を定めるためにはそれらよりさらに細かくする必要がある。(国と府の) その枠にとどまるのであればことさら条例化する必要はない。

障がい者福祉も次年度第7期、障がい児は第3期の計画の策定がある。来年度の4月以降は計画策定に向けて作業が忙しくなる。これもアンケートをとり、アンケートの結果を踏まえた上でニーズを把握し、策定していくことになる。

報告事項4 児童福祉専門分科会の開催経過について

【資料4】を用いて説明

職務代理

幼保連携型認定こども園と保育所の新規設置、小規模保育施設の新規設置についての審議を行っており、全て設置は適当であるとし設置されることとなる。

国でもこの4月からこども家庭庁がスタートし、こども基本法を元にこども関係を子どもが真ん中にある社会にしていきたいと思いますということになる。

委員

こどもに特化した話をしていくために省庁を減らしていく中で、庁をひとつ作られる。まずは作られた同時に、中をどうやってしていくかを今後期待していきたい。

職務代理

こどもの問題は、深刻である。出席率が1.57を下回り大変だと言っていたのが89年。30年ほどたっているが、その時から減少すると言われてきた。昨年の出生者が80万人を切っており堺市の人口より少ない状況。不登校の子が24万いる。こどもの状況は過酷であるこどもを支える仕組みを作っていく必要がある。そういった問題は家庭でというが、家庭に問題がありその機能を果たせないような場合もあるため、社会で子を育てるようにしないといけない。日本の国で急には変わらないので、八尾市としてどうしていくかを考えていく。明石市が子育て支援策が充実している。子育て世代が転入し2人目3人目が出来ていることは、子育てしやすい環境にあるということ。八尾市もピンポイントでしっかりと政策を、関西圏でこどもを育てるなら八尾市だといえる社会になるようしていく必要がある。

委員

八尾市でほっぷという施設をつくられましたけど、このような課題に対して何かしていますか。いじめや虐待はあると思うが、少子高齢化に対して何か取り組んでいることはありますか。

事務局

ほっぷについては、子供総合支援センターということで、虐待やいじめもあるがこどもの相談全般、子育てに関する悩み事などなんでも相談してくださいとしており、その中でほっぷで対応できるものもあるし、より専門的な問題であるなど繋がらなければならないものは繋いでいく機関として昨年10月に新たに開所した施設です。

こどもにかかる部分の相談のハブになる機関とっていただければと思う。今後つなげる支援室で福祉全般をやっていく部分とこどもの部分はほっぷがやっていく中で家庭での課題があれば、つなげる支援室と連携しながら子育て世代を支えていく取組みを進めていく機関。

職務代理

こども総合的相談支援のハブ機関になるということですね。

子育て関係・こどものことで何か困ったり気づいたことがあったら、ほっぷにつなぐといふこと。もう一つはつなげる支援室との連携が課題となる。どちらも総合としているので、総合の二重構造にならないよう連携を密にする。

こども関係は乳幼児期の場合と学校との連携を強化しないといけない。こういった問題は学校が一番把握しているため、教育機関との連携をより一層強めて、支援の仕組みを一緒に考えていく必要がある。

報告事項5 民生委員審査専門分科会の開催経過について

【資料5】を用いて説明

職務代理

民生委員の審査に関することを行っている。資料5-1で欠員が47人あるが、定数に対して何%ですか。

事務局

12月の一斉改選から数名辞職され、現在363人という委嘱数となっており、約88%となっている。

職務代理

八尾市のように人情味がある地域活動が活発な地域でも、なり手がいなくなっているとい

うこと。民生委員に関しては若い世代で民生委員してもいいという人が増えればいいといいながら、なかなか打つ手がない状況でもある。

地域活動に関して言うと高齢化が進んでいて、高齢者の就業率も高い。今までなら地域活動をしてくれそうな人が働いている。もう一つは専業主婦が減っている、女性の就業率も非正規ですが上がっている。今まで地域活動を支えてくれていた2大層の高齢者の元気な層と女性の比較的自由がきく層が就業するようになっている。日本全体で人口が減っており、地域活動に関しては担い手が減っている。一方で福祉専門職も不足してきているが、課題はどんどん山積している負のスパイラルに陥っているこの状況を何とかプラスに変換できるような取組みがある。それを八尾市発でやってほしい。

事務局

やっていく意気込みは持っている。先ほども有償運送の話もいただきましたしなかなかボランティアもなり手も少なくなってきたし、高齢化となっていて続かないような部分もあるが、社会的なニーズ・地域のニーズが高まっている状況を目の当たりにしている。民生委員の欠員数も今までで一番多い状況でこれは全国的にも同様の状況なのですが、地域の一つの大きな課題だと感じています。

ここについては、さきほどおっしゃったように今働いている層をどうやって参画させていくか、働き方改革の一つではありがたい状況もありますので、そういった方々が、例えば八尾で働く人を地域で活躍していただけるか、それは制度を見直すことでできる部分もあるかもしれないし、参加のしやすさや負担感を減らすことに課題があるかもしれないといったところをみなさまにご意見を伺いながらよりよい仕組みを一步でも前に進めるような形でやっていきたいと思っている。

さきほど少子化の話もありましたが、少子化対策として八尾市が打ち出すのはまだ出来ていない状況にあります。どこに行っても相談ができたり、地域の中で安心して暮らせるまちづくりの一つとして、こどもの相談機関であったり私たちの相談機能を高めに行こうということで努力している。そういったところから派生して、地域の声から課題が見えてき、それに対してひとつひとつしっかりと向き合うことによって、住みやすいまちづくりが出来ると考えている。

ひとつひとつの小さな取組みを積み上げていくことで目標達成したいなと考えている。

職務代理

今日の案件の中にもいろいろな課題が確認されている。それに対して何かアクションをしていく必要がある。

委員

推薦要綱を変更した中で、八尾に住んでいなくても店舗等を構えている場合は対象になると変えられたが、この要綱で推薦された方はいますか。

事務局

現在は、まだございません。

地区からは相談があった中で提案させていただいたもので今後出てくる可能性はありません。

委員

担い手がいなくてよく言われる。役職を受けるのが嫌、負担が大きいとかあるが、これはやる気のない人の言い訳です。

忙しい人ほど動いている、暇な人ほど受けてくれないのが現実です。

我々の年代は階層型で上に言われたことはやっていこうという世代で、今の世代は階層型では誰も動かない時代である。ネットワークを組んで、今の若い世代はグーグルも離れてきたチャットのGPTでグーグル以上に早く質問すればすぐに答えが返ってくる。そういったものを利用している。だからスマホを手放せなくなっている。勉強するのもスマホ、なんでもスマホで解決している。新しい人間関係の感情がいらぬというのが現状である。そこに人間性をどう養っていくのが課題と考えている。

我々は世話になったからお返ししないといけないと育ってきた。今の若い世代はそうではない。私が関わっている大学生あたりの人たちの方が地域活動に大変関心を持っている。時代に合わせる形でやっていかないとここでいくら議論し答えをだしたとしても答えにはならないと思っている。毎年のようにこう言った会議をやっていく、それは変わっていく人たちの意見を聞きながらどういう社会を求めているのかが一番大事だと思います。上から見てこうであろうああであろうなど、これをしないといけないと押し付けられるからそれはしてられないといわれる。いつも出入りできるネットワークで誰かが動いている社会をつくっていかないと誰かが命令して動いていく時代じゃないと思う。そのあたりをしっかりと考えていただかないと今後前に進まないと考えています。

職務代理

誰かがやっていて、誰かは知らんぷりではなく、みんながそれぞれに動き合う形がいる。働きながら活動ができる、事務処理などは合理化し余計な負担感をなくしていく。活動することのお得感をもっと出していく

地域共生社会で地域活動というが、担い手はどこも不足している。忙しい人はいろんなことをやっている。

委員

担い手をどう見るか。リーダーを担い手という言い方をするがその担い手はいない、しかし、仲間で一緒にやろうとする仲間はいる。

職務代理

担い手づくりというより仲間づくりですね。担い手は言葉の形からしても重たく感じる、負

担をしないといけないと思わせる。仲間づくりとした方がいいかもしれない。

委員

やっている我々からしたら楽しくやっており負担に感じてはいないが、それをみている若者・子どもがどう感じるか。そこまで出来ないと思う人もおれば、やってやろうという者もいる。

4 その他

来年度のスケジュールについて報告

閉 会